

令和6年度 東京都福祉人材確保対策推進協議会 第2回専門部会（人材確保部会）
議事概要

1 日時

令和7年2月13日（木） 午後2時から午後4時まで

2 場所

ビジョンセンター西新宿702

3 主な意見

（1）学校や地域とのつながりを太くするためにはどうすればいいか

○様々な地域活動に参加し、地域との接点を積極的に持つことを意識してはどうか

- ・経営者がどれだけ学校や地域との繋がりについて意識・危機感を持ち、アクションを起こしているかが大事である。福祉の仕事には地域づくり・まちづくりの役割も広い意味では含まれていると理解しており、地域との繋がりが学校との繋がりを生む。
- ・地域に協力者が増えることで様々なメリットがある。関わりを持った学校の福祉の仕事に対する意識が変わり、また採用に繋がった事例もある。すぐに結果が出るものではないが、地道に取り組んでいけば、将来的にはプラスのサイクルに繋がるはずである。

○学校側に福祉関係団体への職場体験を働きかけてみてはどうか

- ・中学生の職場体験は非常に重要である一方、事業者側としては人材の確保は喫緊の課題であり、将来的な人材確保という部分にどれだけ力を注げるかは、法人の規模や経営者の考え方によってしまうのではないか。
- ・中学生は職場体験というよりも社会科見学のような気持ちで来ている場合があり、将来の職場として選んでもらうには難しい部分もある。直接福祉の職場へ繋げるだけでなく、高校卒業後の進路として養成施設に繋げるといった観点も重要ではないか。

○各主体による学校へのアプローチを拡充してはどうか

- ・都の「フクシを知ろう！なんでもセミナー」の取組にはメリットがあるものの、区市町村社協で元々行っている取組とのすみ分けが難しい。
- ・区市町村社協は法人とのネットワークがあるため、学校側のニーズに応じてコーディネートすることには慣れており、そうした役割を地域の中で担っている。

(2) 職場体験等で子供たちにより魅力を伝えるためにはどうすればいいか

○「私たちが中学生に伝えたい福祉の魅力」の活用促進に取り組むこととしてはどうか

- ・ハンドブックの内容は、養成施設における教育方針とも近く、有意義であると感じており、今後の活用方法を検討したい。
- ・高校の段階だとキャリアが決定されていることが多いため、中学校の段階でのアプローチが重要である。ハンドブック付属のツールは有効に使えるのではないかな。

○デジタル技術等の活用など、新たなアプローチで福祉業界の魅力を伝えてみてはどうか

- ・若手の人材は ICT 等に興味がある方が多く、最新の福祉機器等を体験することで福祉の職場の魅力を伝えるとともに、養成施設での学びに繋がられるのではないかな。
- ・過年度に文科省にて医療や福祉現場を体験できる VR の実証事業が行われていた。現在は金銭面で余裕のある学校では導入しているようである。
- ・スタートアップをはじめとする他業種からの提案は、関係者だけで議論していたのでは出てこない手法が出てくる可能性があり、業界の課題解決に繋がる可能性があると感じる。
- ・福祉業界の魅力は、市場規模や成長性等のビジネスの観点からも伝えられるのではないかな。若年層にはそのような観点の方が刺さる可能性がある。

○その他（全般的な事項）

- ・福祉の現場には、施設だけではなく在宅もある。職場体験の実施は安全性等の課題もあり難しいと思うが、在宅に焦点を当てた魅力発信も良いのではないかな。
- ・都は様々な取組を行っているが、現場の地域では存在を知らないという場合もあり、区市町村への発信・周知が必要である。
- ・施設の種別によっては子どもへのアプローチは難しいものの、私立小中学高生へのアプローチが何かできないかと考えている。
- ・施設を認知してもらうという点ではハンドブックやデジタル技術の活用も有効。そこから一歩踏み込んで、実際に働きたいと思ってもらうためには各施設の工夫や努力が必要である。